

日本・エクアドル外交関係樹立 100 周年に寄せて —日本に何ができるか—

小瀧 徹

はじめに

日本とエクアドルが外交関係樹立 100 周年を迎える 2018 年を目前にした 17 年 5 月、新旧憲法下 3 期 10 年もの長きにわたり続いたラファエル・コレア大統領が退任し、レニン・モレノ新大統領が就任した。コレア大統領の与党 AP の候補で、第 2 期コレア大統領の下で副大統領であったモレノ新大統領は、エクアドルをどこへ導くのであろうか？



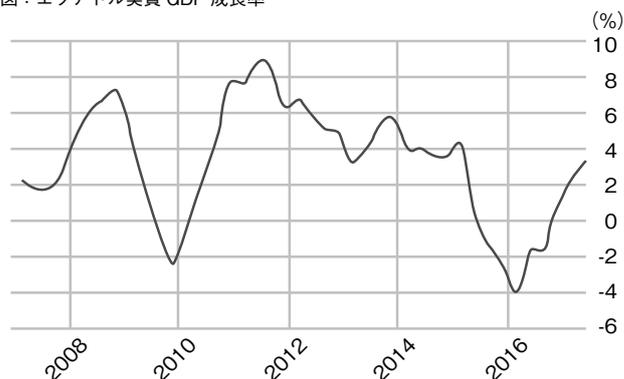
モレノ新大統領（副大統領当時）と執筆者—モレノ氏は強盗の銃撃で車椅子生活を余儀なくされたこともあり、障害者福祉に心を砕き、日本の福祉関係援助の受入窓口となるなど日本との関係は深い。副大統領退任後は障害問題担当国連事務総長特別代表を務めた。

コレア政権の足取り

2000 年代はじめから続いた既成勢力の腐敗と政治の混乱を批判して 2007 年に政権に就いたコレア大統領は、新自由主義が貧富の格差を拡大したとして、「市民革命」の名の下に政府の市場への介入を高める社会主義的政策をとり、道路、空港、港湾などのインフラストラクチャー整備を進め、また教育、医療、福祉などの社会政策を拡充し、成長と国民生活水準の底上げを図った。これにより成長率はラテンアメリカ諸国の平均を上回り（2007～14 年エクアドル年平均成長率 3.5%、ラテンアメリカ全体 3%）、国民所得も増大した（1 人

当たり GDP は 2007 年 3,300 米ドルから 14 年 6,150 ドル）。

図：エクアドル実質 GDP 成長率



出所：エクアドル中央銀行ホームページのデータより執筆者作成。

しかし、これら政策の財源は国家が管理し国家歳入の約 3 割を占める原油の高値継続が産み出したもので、コレア政権も 2013 年ごろから原油生産のみに依存する経済から脱却しようと他産業の育成強化を図る「生産マトリックス」政策を推し進めていた、しかるに 2014 年の原油価格暴落は一時にエクアドルの輸出縮小、歳入減をもたらし、ドル化政策のため金融政策、為替政策の自由を持たないエクアドル経済は直ちに失速した（2015 年成長率 0.2%、16 年は大地震の影響もありマイナス 1.5%）。

これにより、憲法改正により新憲法下での 3 選を可能にしていたコレア大統領の人気も下がり、2017 年の大統領選挙への出馬を諦め、モレノ元副大統領を後継候補に立て、自身は背後で影響力を保つ方策をとったが、結果は右派の対立候補に対し決選投票まで持ち込まれたの辛勝であった。

モレノ新大統領の動き

当初コレア前大統領の忠実な後継者と思われていたモレノ新大統領は、就任後に前政権閣僚の多くが関係

すると疑われていたブラジル建設会社の汚職問題の捜査を強化し、その過程でコリア前大統領の腹心であるグラス現副大統領（前コリア政権で副大統領）の権限縮小・逮捕を行い、これによりコリア前大統領と対立することとなったが、国民の圧倒的な支持（各種世論調査で80%近い）を背景にコリア前大統領の影響を排除し、野党や民間との対話を重視するなどの自らの政策を押し進める体制を整えつつある。さらに汚職対策の徹底や大統領職などの絶対的再選禁止（これによりコリア前大統領の将来の復帰の芽が摘まれる）など7項目を国民投票にかけ、その政権基盤を固めようとしている。

経済政策的には、ドル化経済を堅持しつつ、財政均衡の重視、非石油部門の輸出拡大、外国投資誘致の強化、また輸出先や投資国としてのアジア太平洋諸国の重視をあげており、既にその一環としてカンパナ貿易相がアラブ首長国連邦、ロシア、韓国、日本を2017年の11、12月に一か月をかけて歴訪している。

エクアドルの将来

エクアドル経済は、その歴史の中で常にたとえば戦前のカカオ経済、戦後すぐのバナナ経済、2000年代ずっと高値が続いた石油経済と、そのときどきにブームとなった産業に過度に依存しては、そのブームの終焉とともに経済危機に陥るということを繰り返してきた。実際、過去の政府は何度も産業多様化、新産業育成を試みてきたが、そのどれもが中途半端であったり、政治の混乱、社会の対立で実現できず、また別のブームの到来で放棄されたりしてきた。しかし、もう一度詳しくエクアドルの自然、社会条件を見ていくと、実はいろいろと有望な産業があることに気づく。

農業—エクアドルを飛行機で飛ぶと眼下は殆ど常に緑である。太平洋、アンデス山脈と広大な（実は国土の4割を占める）アマゾン源流地帯のジャングルの組合せのおかげでエクアドルは水が豊富なのだ。また赤道直下にあるため海拔0mから4,000mの高度までカカオ、バナナ、花卉など優れた商品作物を栽培することができ、また四季がないため年に何度も収穫できる。キヌアやチア・シードといったスーパーフード、未紹介の高級熱帯果実なども期待できる。

観光—1978年に初めて登録された12の世界遺産の



エクアドルバナナはその気候から糖度が高く、大きく香りが良いのが特徴。
(写真はすべて執筆者撮影)

うち実に2つがエクアドルにある。希少動物で有名なガラパゴス諸島と400年前のたたずまいをそのまま残す首都キトの旧市街である。2017年現在、さらにクエンカ旧市街、サンガイ国立公園という2つの世界遺産を加えたエクアドルには、他にキトから数時間でアクセスできるアマゾンのジャングルや5,000m、6,000m級の高山がある。ハチドリ、カエル、蘭などの種類は世界一でエコツーリズムのポテンシャルは非常に高い。



海に潜り海藻をを餌とするように進化した海イグアナはガラパゴスだけに生息する。

鉱業—同じくアンデス山脈を擁するチリ、ペルーと同様、金や銅の鉱脈が豊富にある。両国との違いはまだほとんど未開発であるということ。最近の進んだ探査技術で莫大な埋蔵量が確認され、政府はようやく鉱山省を設置し、税制を見直すなど海外からの投資受入に積極的になってきた。

物流ハブ—エクアドルはコリア前政権の反グローバルizm姿勢から、チリ、ペルー、コロンビアなどの近隣諸国が組織している太平洋同盟には加盟していない。日本などが押し進めるTPP交渉にも参加していない。だがエクアドルこそコリア前政権の積極的なイン

フラ投資で道路が一番整備された国である。また、最も整備された港湾を太平洋岸に複数持っている国でもある。つまり、太平洋同盟加盟国が分業の物資を輸送し合い、海外との輸出入を行う場合、エクアドルの港と道路を介するのが一番効率的であるのだ。エクアドルが将来太平洋同盟に加盟した暁には、これが直ちに拡大化されるであろう。さらに、エクアドルのマンタ港からブラジルのアマゾン川のマナウス港まで陸路が通じれば、ブラジルにとって最良の太平洋への出口となるというマンタ・マナウス構想があることを付言しておきたい。



日・エクアドル外交関係樹立 100周年 □□

100周年と日本の役割

1918年8月26日、アメリカのワシントンで日本とエクアドルの友好通商条約が結ばれたちょうどその頃、エクアドルの港町グアヤキルで黄熱病退治に個人として奮闘していたのが、アメリカのロックフェラー医学研究所員であった野口英世である。野口は（現在では黄熱病そのものではなかったというのが通説となっているが）、短期間のうちに成果をあげ、エクアドル政府から名誉軍医監、名誉大佐の称号を与えられ、グアヤキルの通りの一つがヒデヨ・ノグチ通りと命名されるなど大いに称賛された（アフリカのガーナで野口が黄熱病の研究中に亡くなったのはその10年後の1928年

である）。野口生誕百年の1976年にはキトとグアヤキルに野口の銅像が立てられた。

いま、新政権誕生で新しい段階を迎えたエクアドルに対し、日本は何が出来るだろうか？この野口の生き方がヒントとならないだろうか？

エクアドルは日本とそれほど多額の輸出入関係はないが、常時60名前後の青年海外協力隊が医療、教育、農業、環境などの分野で活躍している。協力隊の通常の派遣の規模からすれば、人口1,600万人程度の国にとり何倍も大きな数である。それだけ個人が現場で貢献できる国であるということだ。幸か不幸かエクアドルにはブラジルやペルーのような日本からの国策としての移民がなかった（近いものとして、戦後の古川拓殖によるアバカ＝マニラ麻栽培の移民の例があるが少数）。昔からの日系移民や既存の日本企業がすでに市場を確保しているということでもない。上述の有望分野に、個人であれ企業であれ、日本の技術と経験をもって新しい参入者として活躍できる余地がまだまだあるのがエクアドルの魅力ではないだろうか。

グアヤキルでは、2018年の日・エクアドル外交関係樹立100周年・野口英世足跡100周年を記念して2月に野口英世展が開かれ、市の偉人たちが立ち並ぶ一等地に新たな胸像が立てられる。キトには日本庭園も完成し、エクアドル各地で100周年記念の日本祭のほか文化行事、多くの経済イベントが実施される。100周年を機に要人の往来、学生・生徒の訪問プログラムも行われ、日本でもエクアドル祭など文化、経済イベントが計画されている。ぜひとも参加してこれからの新しい日本とエクアドル関係100年の幕開けを応援していただきたい。（詳しくは <https://www.ecuador100.com/> をご覧ください。）

（こだきとおる 日・エクアドル外交関係樹立100周年日本実行委員会委員長、学校法人北里研究所常任監事。前駐エクアドル大使）



エクアドル国立衛生研究所にある野口の業績を讃える銅板。（「グアヤキル到着僅か7日後の1918年7月24日に黄熱病の病原体を発見」と記されている。）